

おおさき ネイチャーポジティブシンポジウム

大崎耕土「～ウルトラ作戦!!～」を提案!!

3月15日(水)、大崎生涯学習センター(パレット大崎)を会場に、「おおさきネイチャーポジティブシンポジウム」が開催されました。

本校からは1年生6名が参加し、東洋大学名誉教授の青木辰司先生のコーディネートで、総合的な探究の時間の学習成果「大崎耕土～ウルトラ作戦!!～」を提案・発表させていただきました。

伊藤市長は、「ワクワクする素晴らしい提案でした。アンケートによって実態を把握し、新鮮な感性で調査した商業高校生らしい内容でした。」とコメントを述べられました。コーディネータの青木先生は、みなさんの探究活動が調査で終わることなく、具体的な提案までしているところが素晴らしいかった。」と講評を述べられました。

1 「おおさきネイチャーポジティブシンポジウム」プログラム

(1) 基調講演

- 呉地 正行 氏 (日本雁を保護する会 会長)
- 羽井佐幸宏 氏 (東北地方環境事務所 次長)

(2) ESD (持続可能な開発のための教育)

- 青木 辰司 氏 (東洋大学 名誉教授)
- 宮城県鹿島台商業高等学校 (1学年代表生徒6名) の発表

(3) 大崎耕土とネイチャーポジティブについて

- 船橋 玲二 氏 (NPO 法人たんぼ 理事長)

総評

大和田順子 氏 (同志社大学 教授)



大崎市長と発表のメンバー

2. 発表の趣旨

今回発表した班は、鹿島台地域の農業従事者100名の方にアンケート調査を実施、農家の方から出された意見を整理・分類・分析しました。その結果、自然災害・高齢化・後継者・空き家・所得・農産物需要の減少・肥料や飼料の価格高騰など、地域の方の生活に関わる問題が山積していることが判明しました。班員は、大崎地域のために貢献できることを模索し、探究のテーマを「大崎耕土と地域の課題」に設定、さらに、山積した問題を地域の課題としてとらえることで、改めて課題解決について探究活動を継続しました。そこから考え出したのが「大崎耕土～ウルトラ作戦!!～」です。



伊藤康志大崎市長をはじめ、東洋大学青木辰司先生、大崎市議会議長関武徳様、産業経済部産業振興局長安部祐輝様、産業経済部長寺田洋一様、産業経済部世界農業遺産推進課の皆様、その他の御協力頂きました皆様、本校生徒のために貴重な機会を頂きましたことに心より御礼申し上げます。

(総合的な探究の時間：指導班)